

夏季鍛錬句会
京都三木半旅館一泊吟行

日 時：2026 年 7 月 11 日(土) ～ 12 日(日) 1泊2日

場 所：三木半旅館 TEL:075-221-5189
京都市中京区六角通麴屋町東入八百屋町 96

ひまわり俳句会

天龍寺

日本で最初に史跡・特別名勝に指定され 1994 年（平成 6）12 月には「古都京都の文化財」として、「世界遺産条約」に基づく世界文化遺産に登録された。



天龍寺は京都屈指の観光地嵯峨嵐山、に建つ臨済宗の禅刹。

名勝嵐山や渡月橋、天龍寺の西側に広がる亀山公園などもかつては境内地であった。

この地はその昔、檀林皇后と称された嵯峨天皇の皇后橘嘉智子が開創した禅寺・檀林寺の跡地で、檀林寺が廃絶した後、後嵯峨上皇が仙洞御所を造営し、さらに亀山上皇が仮の御所を営んだ。

しかし、詳細に残されていた図面を元に大修理が行われ、1955 年に再建されている。

金閣寺ってどんなところ？

京都府京都市にある「金閣寺」は、禅宗を起源とする臨済宗相国寺派のお寺。

「清水寺」や「銀閣寺」などと合わせて「古都京都の文化財」として、1994 年にユネスコ世界文化遺産に登録されている。

実は「金閣寺」は通称で、正式名称は「鹿苑寺」。

境内の黄金に輝く「金閣」という建物が有名だったため、「金閣寺」と呼ばれるようになった。

「金閣寺」は、日本を代表する小説家の一人「三島由紀夫」の作品のタイトルにもなっている。

内容は 1950 年の放火事件の犯人にスポットを当てたものであり、「金閣寺」の美に取り憑かれた僧の放火にいたるまでの経緯を、一人称形式で綴っている。この作品は国内だけでなく、海外からも高い評価を受けている。

基本の豆知識(名前・宗派・世界遺産)

- ・ 正式名称は「北山鹿苑禅寺」、通称が「金閣寺」(shokoku-ji.jp)
- ・ 宗派は臨済宗相国寺派の山外塔頭寺院(shokoku-ji.jp)
- ・ 1994 年に「古都京都の文化財」として世界文化遺産に登録(hida-center.jp)

天龍寺

日本で最初に史跡・特別名勝に指定され 1994 年（平成 6）12 月には「古都京都の文化財」として、「世界遺産条約」に基づく世界文化遺産に登録された。



天龍寺は京都屈指の観光地嵯峨嵐山、に建つ臨済宗の禅刹。

名勝嵐山や渡月橋、天龍寺の西側に広がる亀山公園などもかつては境内地であった。

この地はその昔、檀林皇后と称された嵯峨天皇の皇后橘嘉智子が開創した禅寺・檀林寺の跡地で、檀林寺が廃絶した後、後嵯峨上皇が仙洞御所を造営し、さらに亀山上皇が仮の御所を営んだ。

見どころ 1

法堂（はっとう）



元治元年（1864）の兵火にて焼失、その後明治になり江戸後期建立の雲居庵禅堂（選佛場）を移築、禅宗七堂伽藍のひとつとした。

法堂とは説法堂の意であり、住持が仏に代って衆に説法する場所。

寄棟造・棧瓦葺、東を正面とし天井は鏡天井で鈴木松年により明治 32 年（1899）

に描かれた雲に乗る龍の絵であったが、平成 9 年（1997）に法堂移築 100 年・

夢窓国師 650 年遠諱記念事業として加山又造画伯により新しく雲龍図が制作さ

れた。正面須弥壇には釈迦三尊像を安置し、後の壇には光厳上皇の位牌と歴代住

持の位牌および開山夢窓疎石と開基足利尊氏の木像が祀られ仏殿としても使用

されている。

見どころ 2

庫裏（くり）



明治 32 年(1899)の建立。庫裏は七堂伽藍の一つで台所兼寺務所の機能を持つ。

方丈や客殿と棟続きで、切妻造の屋根下の大きな三角形の壁を正面に見せる。

白壁を縦横に区切ったり、曲線の梁を用いたりして装飾性を出した建物で天龍寺景観の象徴ともなっている。

また、玄関に入った正面に置かれる大衝立の達磨図は前管長である平田精耕老師の筆によるもので、方丈の床の間などに同じ達磨図が見られ、達磨宗である禅を象徴し、天龍寺の顔ともいえる。

見どころ 3

方丈（ほうじょう）



大方丈と小方丈（書院）からなる。

大方丈は明治 32 年（1899）、小方丈は大正 13 年（1924）の建築である。

大方丈は天龍寺最大の建物で、正面と背面に幅広い広縁をもち、さらにその外に落縁をめぐらせる。

正面の「方丈」の扁額は関牧翁老師（天龍寺第 8 代管長）の筆。

大方丈の本尊は釈迦如来坐像【重要文化財】。

平安時代後期の作とされ天龍寺の造営よりもはるかに古い。天龍寺が受けた都合 8 度の火災のいずれにも罹災せず助けられた仏像で、天龍寺に祀られる仏像の中で最も古い像。

内部は六間取り（表 3 室、裏 3 室）の方丈形式で、中央の「室中」は釈迦尊像を祀る 48 畳敷き、左右の部屋はともに 24 畳敷きで 3 室を通して使うこともで

き、欄間の下に襖を立てれば個別にも使用できる。

東は中門に対し、西は曹源池に面する。東側が正面で曹源池側が裏となる。

東西を仕切る襖の雲龍の絵は昭和 32 年に物外道人によって描かれたもの。物外道人とは若狭物外といい、明治 20 年秋田県に生まれ、東京芸術学校を卒業後、山元春挙に弟子入りするも自ら絶縁し、富岡鉄斎門下の山田介堂に学んだ富岡鉄斎唯一の孫弟子。

天龍寺第 8 代管長である関牧翁老師の友人で、昭和 32 年（1957）にこの方丈襖絵を描き上げ、4 ヶ月後に 70 歳で没し、「画龍院如意物外居士」の法名が付けられた。

小方丈は書院で 2 列に多くの部屋が並び、来客や接待や様々な行事、法要などに使用される。

見どころ 4

曹源池庭園（そうげんちていえん）



約 700 年前の夢窓国師作庭当時の面影をとどめており、わが国最初の史跡・特別名勝指定。

中央の曹源池を巡る池泉回遊式庭園で、大堰川を隔てた嵐山や庭園西に位置する亀山を取り込んだ借景式庭園でもある。

庭園全体像は寛政 11 年(1799)に刊行された秋里離島による「都林泉名勝図会」に描かれた姿をよく残している。

方丈からみた曹源池中央正面には 2 枚の巨岩を立て龍門の滝とする。龍門の滝とは中国の登龍門の故事になぞらえたもので、鯉魚石を配するが、通常の鯉魚石が滝の下に置かれているのに対し、この石は滝の流れの横に置かれており、龍と化す途中の姿を現す珍しい姿をしている。

曹源池の名称は国師が池の泥をあげたとき池中から「曹源一滴」と記した石碑が現れたところから名付けられた。

京都のお豆腐について

京豆腐は、京都特有の気候と風土により育まれた、1,000 年以上の歴史を持つ名産品である。京都は降水量が比較的少なく、夏と冬、昼と夜の寒暖差が激しい。これらの気候条件は、良質な大豆と美味しい水を使った豆腐作りに最適であり、その食文化が根付いた。

京豆腐の特徴は 3 点にまとめられる。京都では良質の地下水が豊富にあり、この水を使用して豆腐は作られること。そして、通常の豆腐作りで使用されるにがりではなく、すまし粉を用いることが一般的だ。また、特に木綿豆腐においては、独自の製法により、豆腐の中に空洞が生まれることも大きな特徴である。この空洞は京豆腐特有の食感を生む。

京豆腐の製造には熟練の技が必要とされる。専門店でその伝統的な味が今も守られている。京都の様々な食文化のシーンにおいて、京豆腐は欠かせない存在となっている。

【農林水産省より】